

～目次～

- 【1】TKK活動
- 【2】関連団体の活動
- 【3】行政等の活動
- 【4】特集：この1年の活動を振り返って（TKK加盟団体）

【1】TKK活動

* *

●都身障「社会生活評価プログラム」第2回見学会、3月15日(金)AM

「生活評価プログラム」の目的、狙い

・都身障作成資料「職業生活再開に向けての流れ」<http://www.brain-tkk.com/npobrain/images/rihab.pdf>

この図の中の医療機関の次のステップを支援するのは練馬障害者支援ホーム（入所施設）の役割と位置付けている。本プログラムはその次のステップを担う通所プログラム。直接的な支援はあくまで地域の支援機関の役割、評価結果を地域の支援機関および家族にフィードバックし今後の進路・生活に役立ててもらうための評価を目的としています。

==== 建前と現状のギャップ、期間が4カ月と短い等、使いにくい点はあるが、かなり活用できる機能、サービスであると思いました。特に、質・量ともに充実したスタッフ（マンツーマン態勢）を有効活用しない手はない。都身障が主管している支援策、「練馬障害者支援ホーム」、「就労支援プログラム」も、定員に対し利用は約5割とのこと、ニーズは確実にあるはずなので、TKKとしても施設、プログラムの有効活用を図る動きをする必要性を感じた。==== （矢野）

<医療及び家族相談交流会>

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=91

●第1回 6月30日(日) 慈恵第3病院、第2回 7月28日(日) 東京都心身障害者センター

○第3回 8月18日(日) 慈恵第3病院、第4回 9月29日(日) 都身障、第5回 10月20日(日) 慈恵第3病院、第6回11月24日(日) 多摩障害者スポーツセンター、第7回12月22日(日) 慈恵第3病院、第8回2014年1月19日(日) すみだ産業会館（錦糸町駅前）、第9回2月16日(日) 慈恵第3病院、第10回3月16日 東京都心身障害者センター（時間はいずれも13：30～16：30）

<実践的アプローチ講習会(全3回)>

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=89

●第1回:5月12日(日)、第2回:8月11日(日)

○第3回:12月8日(日)

<事務局から>第3回目はキャンセル待ちを含めて受付を終了致しました。

受講できなかった方で「せめて配布資料だけでも」とご希望の方は、TKKにご連絡下さい。

(配布資料代は受講料と同額になります。)

==== 5月12日 第1回は高次脳機能障害の専門医・OT・ST・臨床心理士の方々を講師に迎えての講習会に参加しました。

栗原まな医師は、「小児高次脳機能障害の特徴は、先が読めない。子供の予後は学校という社会があるから良いと思っていたが、良いといえなくなってきたのではないかな? 社会的問題行動や2次予防欠かせない。困った時、誰か伝えられる人がいるかな?」など、私たち家族会の親たちが最も問題視していることなどを挙げられた。臨床心理士・山口氏は、「障害を持った方が生きていくには集団に所属し、周囲から愛され、他人から必要とされ、自己の成長がある」と話され、ST・廣実氏は、「コミュニケーション障害、認知機能について認識の難しさ」など症例を挙げて話された。OT・繁野氏は地域でのリハビリテーションについて、世田谷区総合福祉センターでの取組み事例など話され、羨ましい訓練方法が揃っていて、都内23区でもこのような取組みを行っていただきたいと感じました。

今回、4名の講師の方々にお話を伺って改めてこの障害の難しさを再認識したと同時に当事者個々に合った支援の必要性を感じました。障害のある人たちがより良く生活できるように私たちも様々なことを学んで地域社会に協力を求め、高次脳機能障害に対する理解を広めて活きたいと感じました。==== (穴澤)

==== 8月11日、アプローチ講習会の2回目、猛暑の中、熱心な受講者が全国からかけつけて下さいました。医療現場の渡邊修先生、千葉リハの太田令子先生、就労支援の田谷勝夫先生、相談支援の安仁屋衣子先生、それぞれ相談支援の現場での長年の蓄積からの講演は重要なポイントのてんこ盛り、会場からも実践者ならではの具体的な質問が相次ぎました。==== (田辺)

●TKK理事会、2013年度総会

6月23日(日)、新宿区大久保地域センター

○シナプス ミニ講演会 「脳損傷者の人権擁護と生活の質を高める支援」

8月27日(火) 14:00~16:30、赤坂区民センター 4階第1会議室

講師:シナプス CEOのジェニファーさん達3人

内容:シナプスの事業概要

高次脳機能障害者の住宅提供プログラム

高次脳機能障害者生活支援の手法

申込み・問合せ先:NPO法人 東京高次脳機能障害協議会 (TKK) TEL/FAX:03-3408-3798

【2】関連団体の活動

* *

●第4回、事例検討会

主催：高次脳機能障害者実践ネットワーク

共催：医療法人社団永生会 永生病院、医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院

8月4日（日）午後、南多摩病院

<http://jitunet.main.jp/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E4%BA%88%E5%AE%9A/>

===事例検討会にあたり代表の渡辺修先生より挨拶と説明がありました。全体の内容は事例の概要の発表・検討してほしい内容を提示・検討後の発表という形式です。約100名の参加者を10のグループに分けて検討会が開始されました。参加者の職種はほとんどが専門職の方でした、そのほかに家族・当事者も加わり様々な立場からの意見がでました。患者さんが現在の状況の中でどのような支援が必要かまた、快適に暮らすことが出来るか、そして介護している家族の負担をどうしたら減らすことが出来るかなどを検討しました。大変有意義なそしてとても貴重な経験でした。====（小澤）

●人と人をつなぐ想いをつなぐ「杜のマルシェ♪」

—会員・地域の皆さま・高次脳機能障害に関心のある方の作品展

主催：杜のハーモニー♪、7月13日（土）～15日（月）、in 深大寺曼荼羅ギャラリー

==== 行事の目的は、当事者や地域の皆さまが持ち寄ったご自分の作品を展示したり、展示品を販売したり、の人と人との交流の場＝「手作り市」です。

主催の杜のハーモニー♪は、地域の皆様に高次脳機能障害の理解を求め、福祉と文化がつながることを目指してきました。『杜のマルシェ♪』も今年で3回目を迎え、嬉しいことに、年々参加者も作品の数も品数も増えてまいりました。そして、様々な方々にも足をお運び頂けるようになり、地域づくり街おこしに一役買うような思わぬ広がりも見られました。

販売を予定していない当事者の作品にも「買いたい・売ってほしい」との声がかかり、急ぎよお買い上げいただいた作品もあり、主催者の予期せぬ展開には内心こころ躍りました。優秀賞をいただいた水彩画にも、「胸を打つ作品だわ～。引き込まれる。売ってはいただけなの？」と感激の言葉も頂戴しました。障害のある方もない方もともに暮らせる街づくりにこれからも皆さまと力を合わせて前に進んで参りたいと思います。====（伊地山）

【3】行政等の活動

* *

●高次脳機能障害者相談体制連携調整委員会

3月25日夜、都身障4階会議室

====平成24年度高次脳機能障害支援普及事業実施状況について。委員会構成メンバーは、座長に渡邊

修先生(慈恵医科大学リハ医学教授)、副座長に辻 哲也先生(慶応大学医学部リハ医学准教授)、及び医療、教育、就労、福祉、区市町村、当事者団体(TKK 理事長)の計 15 名。事務局は都心障センター及び都福祉保健局 障害者施策推進部 精神・医療課。

①都心障センター報告の支援普及事業実施状況：①相談支援、②支援ネットワーク構築、③人材育成・広報普及啓発、④社会生活評価プログラム、⑤就労支援(就労準備支援プログラム他)。

②専門的リハビリテーション充実事業実施病院(2→4 圏域)の実施状況を報告：①西多摩圏域～大久野病院 進藤委員、②区東部圏域～都リハ病院堀田委員、③北多摩南部～慈恵第三病院渡邊座長。

③都精神・医療課報告の平成 25 年度支援に関わる事業予算：①高次脳機能障害支援事業支援普及事業：187 万 7,000 円、②専門的リハビリテーション充実事業：1,707 万 6,000 円、③区市町村支援促進事業：410 万 2,000 円(補助率 3/4)、④緊急相談支援事業：10 万 8,000 円(補助率 1/2)。

④都心障センター報告 平成 25 年度の高次脳機能障害支援事業の実施方針(平成 24 年度と同様)。

⑤細見委員(TKK)が平成 24 年度 TKK 「医療及び家族相談交流会」相談実績について報告。

==== (細見みゑ)

●第 13 回高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会 概要

7 月 24 日(水)夜、都身障 4 階会議室

====平成 25 年度高次脳機能障害支援普及事業実施予定、障害者の相談支援の充実、他について。委員会構成メンバーは、座長に今まで通りの渡邊 修先生(慈恵医科大学リハ医学教授)、副座長は今年から尾花 正義先生(荏原病院リハ科医長)、及び医療、教育、就労、福祉、区市町村、当事者団体(TKK 理事長)の計 15 名。事務局は 24 年度同様。都心障センター及び都福祉保健局 障害者施策推進部 精神・医療課(但し 25 年度から、梅津課長・平賀係長に)。

①都心障センター報告の支援普及事業実施予定の予定事業名①、②、③、④、⑤は、24 年度と同じ。

②専門的リハビリテーション充実事業実施病院の実施を、12 圏域中、4 圏域→6 圏域に拡大予定。

③都精神・医療課報告の平成 25 年度支援に関わる事業予算については、24 年度 3 月報告と同じ。

④区市町村高次脳機能障害者支援促進事業を実施する区市町村は、31 カ所に増大。

⑤五十嵐委員(足立区障がい福祉センターあしすと所長)が相談支援事業について、及び岩崎委員(相談支援センターみずき相談支援専門員)が当障害者関係相談事例をそれぞれ報告。==== (細見みゑ)

○平成 25 年度港区高次脳機能障害理解促進事業

第 1 回 講演会及び医療&家族相談交流会 9 月 8 日(日) 13:30~16:30 高輪区民センター1F 集会室

講演 1:「脳卒中のリハビリテーション」

阿保雅博氏(慈恵会医科大学病院リハビリテーション科診療部長)

講演 2:「地域で行う高次脳機能障害のある方へのリハビリテーション」

繁野玖美氏(世田谷区立総合福祉センター作業療法士)

医療&家族相談交流会：講師による医療面・福祉面からの相談と、経験を経てきた家族・当事者との交流

第 2 回は 11 月 21 日(木)、第 3 回は 2014 年 2 月 8 日(土)に、開催予定。

○福祉関係者のための高次脳機能障害研修会

申込み：<http://www.rehab.go.jp/hodo/etc/2013fukushikankeisha.pdf>

主催：国リハ 高次脳機能障害情報支援センター、10月4日（金）13:00～16:00、国リハ本館4階大会議室

講演1：「利用者同士が育ち合う、地域の居場所づくり」池田敦子（NPO 法人 VIVID）

講演2：「高次脳機能障害のある方の作業活動への支援」久保美希子

（NPO 法人いきいき練馬 ウェルネスアンドワークス 就労継続支援 B 型事業所管理者）

講演3：「高次脳機能障害者の地域生活に対するトータルサポート」駒井由起子

（NPO 法人いきいき福祉ネットワークセンター 理事長）

講演4：「自立訓練施設から地域への移行」（国リハ 自立支援局自立訓練部）

パネルディスカッション：講師

○新宿区委託 高次脳機能障害者支援事業普及啓発セミナー 講演とセッション

「地域につなぐ日々のリハビリに向けて ～高次脳機能障害専門外来医から～」

11月3日（日・祝）13:30～、新宿区戸塚地域センター 7F 多目的ホール

講師：渡邊修氏（東京慈恵会医科大学附属第3病院リハビリテーション科診療部長）

申込み：NPO 法人 VIVID（ヴィヴィ）TEL&FAX：03-5849-4831 URL：<http://www.vivid.or.jp>

【4】特集：この1年の活動を振り返って

ここでは、TKK 加盟の25団体（平成25年7月現在）のうち3団体ずつを順次ご紹介する予定です。

【高次脳機能障害者・遷延性意識障害者と家族の集い なんてんの会】 代表：井上隆子

なんてんの会は2009年4月に当事者6家族が集まって設立しました。現在も偶数月の第3金曜日の午後1時から青梅市障がい者サポートセンターで定例会を開いています。活動の甲斐あって、2011年秋に、青梅市・西多摩高次脳機能障害者支援センター（大久野病院）・家族会（なんてんの会）3者の協働事業として試行、「青梅市高次脳機能障害者グループ訓練（OKG）」が昨年本格始動しました。月2回土曜日、午前がグループ訓練、昼食をはさんで午後は家族会が担当するレクリエーション形式の社会訓練プログラムを行っています。

専門職と患者の1対1のリハビリとちがって、グループ訓練は、一緒にやっている相手のことを見て、自分の出来ること出来ないことに気付き、自然に自分の病識が備わり、他人からの注意や指示が受け入れられるようになるので、昨年実績で、メンバーの1人は障害枠の一般就労に、3人は就労継続支援 B 型の通所へと、次のステップに繋がりました。

なんてんの会では、1年半 OKG の運営に関わった経験を生かして2013年4月から新しく就労支援サークルを始めました。福祉作業所は事業運営の厳しさがあり週5日の利用を希望しているが、そこまでの体力がない当事者も就労意欲は強く、作業出来る場所が必要と考えて、週1回利用者5人に支援者（家族を中心としたボランティア）で、自主作品として刺繍のバッグづくりをしています。作品は地域の福祉施設や常設の障害者のコーナーなどで販売し、良い売り上げになります。しっかりした良いものと評価されて買ってもらえる作品を作ることに目標を置いて、仕事では、時間を守る、身だ

しなみを整える、あいさつをするなどを守るよう皆で努力をしています。来年度は、少し工賃を払えるようにしたいと模索しているところです。

【高次脳機能障害者の未来を紡ぐ会 みなと高次脳】 代表：高井玲子

2012年(H24年)1月28日「みなと高次脳」は産声を上げました。その日の出席者は8名、互いに初めて会った訳ではありません。では、どういう繋がり?・・・その前の年の「港区高次脳機能障害理解促進事業/講演会及び医療&家族相談交流会(TKK企画)」の「懇親会」で出会ったメンバーでした。当事者も、その家族も、支援員もいる構成でした。高次脳機能障害というワードが結びつけた人の出会いは、短時間でも、すぐに信頼と絆をつくりました。

1年間の奇数月・第二土曜日・午後「定例会」という形で港区内の施設で集まり「今、こういうことを提案したらいいんじゃないか」「今、こういうことを知りたい」「こういうことを言いたい」と、お茶なんかも自前で3時間、途中で15分の休憩も入れながら、もっと話し合いたいと思うほどあっという間に時間は進みます。

まだ1年8ヶ月経ったばかりですが、やりたいことは沢山。その中で、力を入れていることの一つが「当事者も家族も安心できる持ち歩ける防災グッズ」選びです。昨年11月の定例会に、港区職員による「大震災に備えて」の話しを聞き、更に「東京臨海広域防災施設(有明)」に見学に行き、防災グッズの提案を具体的に進めています。「笛とライト一体型の持ち歩きグッズ」はどれが良いか?検討中。そして次回9月の定例会で作るのが「家族の顔写真のパウチ化」です。持ち歩く家族の写真は、災害の混乱時に言葉以上に確実性のある情報になります。そして初めてですが港区へ「要望書」を提出予定です。さて、今回はこのへんで。また登場させて下さ〜い。皆様、末永く宜しくお願ひ致します。

【NPO法人高次脳機能障がい者活動センター 調布ドリーム】 代表：吉岡千鶴子

1年前の8月は、2月から試作を始めた犬用クッキーが、何とか形になってきた頃でした。トレイニー達の作った、煮干し、胡麻、チーズ、おから等々の犬用クッキーを、我が家の愛犬は喜んでパクパク食べた頃でした。11月、3月、7月のドリームサロンでは講演会が身近な勉強になり、全体フリートークではトレイニー達が回を重ねるたびに逞しくなりました。また地域の福祉イベントには、10月、12月、5月、6月と参加、冬はお汁粉、初夏はフルーツあんみつを完売、物品販売やステージで体験発表や合唱をしました。火~土曜日のPC、卓球、音楽、絵画等々のリハプログラムの合間のこの様なイベントは、社会参加と共にトレイニー達の底力になっていく様に思います。また一年前から新たな多機能型事業所を目指し、今までの生活訓練に就労継続支援B型を追加する為、右往左往して漕ぎ着け、今年4月に開設出来ました。そして就労継続支援B型事業の柱となった「夢市」開店で、遂に犬用クッキーは、DDクッキー(ドリームドッグクッキー)の名称で、さつま芋・紫いも・チーズ味で売り出しました。他にも手作り品や新品同様リサイクル品等を取扱っています。地域からは物品の提供や、立ち寄ってくださるお客様も少しずつ増えて、トレイニー達は忙しく働くことが嬉しそうな毎日です。

以上